

中央区地域包括ケアシステム推進方針に基づく取り組み状況

資料4

<基本目標1. 老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう！>

取り組み方針(1)「校区単位の健康まちづくり」を推進する

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと(各団体)・課題(関係課)	
①基本的な生活習慣の習得と確立	校区自治協議会代表	託麻原校区 町内会や老人会、子ども会等と一緒に健康についての啓発や情報を発信・共有する。	きめ細かな福祉活動のため、全体的な校区サロンは年1~2回開催し、小規模サロン・御近所サロンを設定してそれぞれ校区と町内の連携を図ることを目的とした取組。	
	熊本市食生活改善推進員協議会	「すこやか食生活改善講習会」の実施。生活習慣病予防のための献立等を調理実習を通して校区住民に伝えている。日頃の食事とのバランスや味付けの違いから食生活を見直す良い機会になったとの感想が多数。	平日昼間の開催と周知の場所・機関等が限られるため60~80代の参加者が80%を占めている。40~50代の働き世代への周知と呼びかけ。	
	熊本市8020健康づくりの会	①地域の方の歯と口腔の健康維持②8020運動の普及啓発③口腔機能による低栄養予防講話等の生活の質向上	①地域の方の歯と口腔の健康維持②8020運動の普及啓発③口腔機能による低栄養予防講話等の生活の質向上	
	熊本市歯科医師会	短期集中予防サービスとして要介護者の口腔内のケア・指導に取り組んでいる。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	生活習慣の習得と確立が、在宅生活の基本となると捉えておりますので、介護サービス等をマーンメントする際には生活習慣の確立ができるように心がけている。	今後もこれまでと同様に基本的な生活習慣の習得に向けた支援や相談をお受けする機会があれば引き続き、対応していきたいと考えている。	
	熊本市障がい者相談支援センター	障がいのある65歳以上の方で地域活動支援センターへの通所を通じて基本的な生活習慣の習得に向けた支援や相談を受けている。	今後もこれまでと同様に基本的な生活習慣の習得に向けた支援や相談をお受けする機会があれば引き続き、対応していきたいと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	一新校区で21か所、五福校区で2か所、城東校区で1か所、壺川校区で12か所、慶徳校区で3か所の地域活動が継続的に行われており、休止・廃止となった活動は今のところみられていない。世話人の不足という問題もあったが、2か所の通いの場で、マッチング事業を活用し支援者を獲得して活動継続している。	次世代の世話人の獲得が今後の課題となっており、当番制による世話人の負担軽減やボランティアの活用を提案。また世話役の育成を行っていく必要がある。
		中2	住民主体の通いの場でパンフレットやチラシを活用し、フレイル予防の周知、啓発を実施。	同左
		中3	体力低下について相談を受けた場合は運動機能改善のため短期集中予防サービスをご紹介させてもらっており、年間25名ほどがご利用されています。常時、黒髪地域コミセン、碩台地域コミセン、2箇所にて業務受託事業所に毎週1回、開催してもらっています。	口腔機能改善や栄養改善プログラムについては利用される方が少なく、利用しやすい体制が必要かと感じており、課題と考えています。
		中5	サロン等での健康教室や家族介護教室で生活習慣病の予防についての講話。	新規サロン等の立ち上げ。
		中6	各集い場で、フレイル予防の啓発に努めた。また、理学療法士や作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士等の専門職の講話を促し、参加者の健康の重要性に気づく機会を構築している。	各校区と校区保健師や各専門職協力しながら継続的啓発活動をおこなっていく。
	保健こども課	・高齢者サロン等で、フレイル予防や生活習慣病予防に係る生活習慣の見直しのため健康測定(体組成、血圧)、食生活や健康に関する講話を行った。 ・赤ちゃん訪問や育児相談、幼児健診、離乳食教室、子育てサークル、学校保健委員会等で、生活習慣に関する情報提供を行った。	同左	
	②特定健康診査等受診促進を通じた健康なからだづくりの推進	校区自治協議会代表	託麻原校区 各町内のサロン等で健康チェックや健診を促している回覧板で情報を発信し、健康づくりに取り組む(サロン等)。	同左
		熊本市食生活改善推進員協議会		検診前後の時期に合わせて減塩料理教室や健康相談会を開催。
		熊本市8020健康づくりの会	歯科口腔健診の受診勧奨。	受診勧奨チラシを配布し、歯科口腔健診の重要性を周知する。
熊本市歯科医師会		節目健診事業(20歳、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳)。	同左	
熊本県介護支援専門員協会		かかりつけ医との連携を図り健康支援が行えるよう、業界団体にて主治医とケアマネジャーの連携に向けた研修会の開催等を行い、少しずつではあるが連携の機会が増えてきていると思われる。	かかりつけ医との連携は十分な状況ではないと言われていることもあり、継続して研修会などを通して取り組んでいきます。	
熊本市障がい者相談支援センター		障がいのある65歳以上の方等から特定健康診査等受診に向けたお知らせが郵送された際にどのように対応したらよいかの相談を頂くことがあるため、その都度、届いている書類の確認を本人と一緒にしたり、受診に向けた支援(この医療機関で受診を行うかの選定と予約)まで行い、受診に繋げている。	今後もこれまでと同様に特定健康診査等受診に向けたお知らせが郵送された際にどのように対応したらよいかの相談を頂くことがあると考えられるため、その際に引き続き、これまでと同様の対応をしていきたいと考えている。	
熊本市地域包括支援センター連絡協議会		中1	保健こども課と連携し、一新、壺川、慶徳校区では、サロンや通所日等での栄養や歯科口腔、健診受診啓発を行っている。城東や五福校区での活動状況を把握できておらず、地域での啓発の差が生まれている	保健こども課と連携し、保健こども課への地域活動の情報提供・協力依頼を行い、地域別での啓発の差を無くし、啓発活動を広げていく必要がある。
		中2	サロンや老人会、住民主体の通いの場、または民協などの会議で特定健診の促しや健康講話等を実施している。	同左
		中5	・歯科検診を含め、検診の必要性の理解の推進。 ・健康な体づくりとしてフレイル予防や身体機能の維持向上のため運動・栄養に必要性の周知。	同左
		中6	機会があるごとに校区健康カルテのデータを活用したうえで、健康づくりへの意味づけを行っている。また、校区保健師と連絡を図りながら地域の実情に応じた啓発に繋がっている。	各校区と校区保健師や各専門職協力しながら継続的啓発活動をおこなっていく。
保護課	家庭訪問等とおして、対象者に特定健康診査(生保者等検診)の受診勧奨を行った。	同左		
保健こども課	各校区の民児協議会、自治協議会、社協長会議、高齢者サロン、地域のイベント等で啓発を行った。	同左		

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと(各団体)・課題(関係課)	
③健康課題や健康づくり等の情報発信と全世代で学習する機会の充実	校区自治協議会代表	託麻原校区 町内会サロンでささえりあや専門職を招いて健康について学習をした。	同左	
	熊本市食生活改善推進員協議会	スポーツフェスタや秋祭り等校区主催のイベントで健康ブースを出展して、レシピ配布や食材組合せゲーム、箸を使った豆遊びゲームを行っている。	校区だよりや掲示板、SNS等で「食改だより」や健康ミニ情報を定期発信。	
	熊本市8020健康づくりの会	校区イベント等でリーフレットの配布を通じた8020運動の普及啓発。8020クイズやパネルアンケートの実施。歯や口腔の健康に対する関心が高まったと思う。こどもから大人まで楽しく参加できるクイズは自然と知識が身につく。	リーフレットの配布を通じた8020運動の普及啓発。イベントでガムを噛んで「噛む力」を測定結果をもとに口腔機能の大切さを説明する。高齢者への積極的な声かけ活動。イベントでの体験ブースを通して活動に興味をもってもらうような仲間づくりを展開したい。	
	熊本市歯科医師会	熊本市民健康フェスティバルへの対応。歯と口の健康週間事業への対応。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	要支援(フレイル)から要介護状態にならないこと、要介護状態からの改善に向けたケアマネジメント(自立支援)を目標に、利用者及びご家族へ説明や同意(学習機会)をいただきながら取り組んでいる。	健康課題の抽出や健康づくりの情報発信ができる様に、ケアマネジメントを通して取り組んでいきたい。	
	熊本中央警察署	ささえりあ天神の協力のもと、最近被害が多くなっている「ニセ警察官詐欺」等の特殊詐欺に関するチラシを高齢者の方に配布してもらうことで、その手口を知ってもらう等し、注意喚起を行った。	今後、ささえりあで開かれるサロン等の場で、特殊詐欺(オレオレ詐欺等)に関する被害防止講話等をしてほしい等の要望があれば、会場へ趣き、講話を行いたいと考えている。	
	熊本市障がい者相談支援センター	年に数回、地域活動支援センター等の事業所の中でのプログラムの中で健康づくりや栄養指導に向けた活動を実施することがあるが、事業所内での活動であることが多いため、地域に開かれた全世代で学習する機会の充実までには至っていない。	事業所のキャンパシティーや利用者の障がい特性の観点からどこまで参加者を広げているのかについては、まだ課題があるが地域とのつながりを創出出来る機会として今後、実施方法等について考えていければと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	全世代が参加する地域のイベントに積極的に参加し、健康づくり啓発や健康・介護相談を行っている。	保健こども課やまちづくりセンターと連携し、地域のイベントの把握や協力依頼を行いながら、啓発の場を広げていく必要がある。
		中2	サロンや老人会、住民主体の通いの場、また民協等の会議への参加で健康講話(CKD、認知症、運動など)を実施している。	同左
		中3	老人クラブや高齢者サロン、地域支え合い型サービス通所サービスなど住民主体の通いの場において、健康づくりの啓発のための講話などを実施しています。	ポッチャ、eスポーツ、スカットボール、健康マージャンなど、障がい者も含めた、多世代、全世代で実施できるような取り組みを推進しながら、健康づくりや防災も含めて、多様な啓発ができればと考えています。
		中5	回覧等で健康教室や家族介護教室等にて全世代へ健康づくりの推進。	同左
中6		健康づくりの情報があれば、民児協や社協等の各種団体や地域住民に発信をしている。また、当包括で定期的に広報紙を作成している為、さまざま集いの場で健康づくりを行っている記事を載せ、各集いの場や地域住民に配布している。	各校区と校区保健師や各専門職協力しながら継続的啓発活動をおこなっていく。	
まちづくりセンター	地域の会議等に出席し、健康づくりに関する他課事業の紹介、また他校区における取り組みの情報提供。校区主催の研修会、ささえりあの研修会へ参加することにより、学習する機会としている。	同左		
保健こども課	・19校区すべての小学校と大学等へ「校区単位の健康まちづくり」の事業説明、健康課題等を共有を行った。また大学に対して協働でできることがないか話し合いをし、学園祭の健康ブースや進路講話の際に健康づくりに関する啓発を行った。 ・企業(コンビニ、製菓企業、健診機関)と健康づくりのイベント開催。	同左		
④健康づくりに関するボランティアの育成と活動支援	校区自治協議会代表	託麻原校区 福祉推進委員(ボランティア委員)の増員を図る、老人会等の開催時に参加して親睦を図る。	同左	
	熊本市食生活改善推進員協議会	「ヘルスサポーター養成を通じた地域をつなぐプロジェクト」として中・高・大学生に向けて、若い世代からの食習慣がのちの生活習慣病につながることを伝えている。	ヘルスサポーターを活用した多世代交流会の開催や地域イベントの企画、世代を超えた交流の場を提供する取組を検討している。	
	熊本市歯科医師会	8020推進員の育成事業。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	地域包括支援センターの活動へ参加するなど、ボランティアの方々との交流や活動支援をおこなっている。	日常的な取り組みはできていませんが、継続してボランティアの方々との関わりを持てるように取り組んでいきたい。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中2	介護予防サポーターを活動につなぐため、集いの場の立ち上げと同時に運営ボランティアを育成するなどの支援を行っている。	同左
		中3	介護予防サポーターさんが1名、碩台地域コミセンで開催されている地域支え合い型サービス(通所サービス)で、講師による体操のあとの趣味活動の時間のお世話役で活動されています。碩台校区の食生活改善推進員さんが校区社協主催のコミセンカフェで活躍していました。	8020推進員さんや食生活改善推進員さん、介護予防サポーターさん、それぞれ、今後、黒髪地域コミセン、碩台地域コミセンで開催されている地域支え合い型サービス(通所サービス)などの場で活躍いただけたら考えています。
		中5	ボランティア団体等の情報把握から、実効性のある関係づくり。成果として進展なし。	同左
		中6	介護予防サポーター、8020推進員、食生活改善推進委員等多くの健康づくりにかかわるボランティアが養成されているが、必要に応じて連携を図っている。また、高齢者の社会参加の視点で、ニーズがある方にはそのような育成があることを啓発している。介護予防サポーターは、区福祉課担当者とも連携を図り活用できるように務めている。	各校区と校区保健師や各専門職協力しながら継続的啓発活動をおこなっていく。
	福祉課	・介護予防サポーター(高齢福祉課主催の養成講座受講生、地域で介護予防活動に取り組むボランティア)の実習支援。 ・養成後のサポーターと活動の場とのマッチングや活動の後方支援。 ・R5年度より、通いの場で体操指導ができるサポーターとして、介護予防サポーターの中から希望者に対して元気体操トレーナーを養成している。(高齢福祉課)	・介護予防サポーターの活動の場の確保・拡大 ・介護予防サポーターの周知 ・介護予防サポーターと地域や関係機関等とのネットワークづくり ・介護予防サポーター同士が交流する機会の不足	
	保健こども課	【食生活改善推進員】 ・食生活改善推進員の養成講座の実施と活動支援を行っている。その中で、生活習慣病や低栄養、ロコモ(骨粗しょう症など)等の予防に関する支援を行った。 ・食生活改善推進員と協働で、地域のイベント等の健康ブースにおいて、野菜摂取や食育の啓発を行い、活動の周知を行った。 【8020推進員】 ・8020推進員の養成と活動支援を実施。地域の通いの場等において、「オーラルフレイル」予防の重要性を周知し、「お口の体操」や「た液腺マッサージ」を通じた口腔機能の維持向上に関する啓発活動を支援を行った。 ・8020推進員と一緒に小学校PTAや地域住民に対して、こども達の歯の健康づくりへの協力を働きかけを行った。 【健康をつくるボランティア医師の会】 ・代表者会議や書面会議を実施した。	同左	

取り組み方針(2)多様な介護予防活動の拠点を つくる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①「元氣くらぶ」等介護予防活動の町内ごとの推進	校区自治協議会代表	託麻原校区 各サロン開催時に健康に関する予防や活動・取組を話し合う。専門職との話し合いで健康について学ぶ。	予防について年代が違うと取り組むことも難しい。	
	熊本市民生委員児童委員協議会	百歳体操の実施協力。	百歳体操の実施団体及び実施場所を増やしたい。	
	熊本市食生活改善推進員協議会	フレイル予防(たんぱく質・かむ力・水分摂取)をテーマにした講話。「健康意識が高まった」「家庭でも実践している」等生活習慣の改善への意識が定着。	一人暮らしの高齢者向けに簡単・手軽な一皿メニューの紹介。	
	熊本県介護支援専門員協会	地域包括センターからの情報提供にて、各事業所ごとに行ける範囲での参加協力を行っている。	事業所ごと、ケアマネジャーごとの取り組みになるが、介護予防活動への活動については、意識を持って取り組んでいきたい。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	各校区での地域活動はあるものの、活動の場は校区ごとでも差があり、場所の問題や世話人の確保の問題で立ち上げができない状況がみられている。	近く集う場所がなく、活動空白地域での場所探しとして、区やまちセンと連携した空き家の活用を検討し、地域での短期集中予防サービスから地域住民の介護予防活動への意識付けを図っていく。
		中2	地域と協力して可能な範囲で徒歩圏内に通いの場を立ち上げ、距離や開催日、内容などにより選んで参加できる体制を整えた。	同左
		中3	介護予防の通いの場の立ち上げ、継続支援を実施しています。令和7年度にも1か所、サービス付き高齢者住宅の食堂を会場に、近隣の方が集まって、新しく立ち上げられました。	サロンや老人クラブなどが人材不足でなくなった場合でも、レクリエーションのような、やりたいことだけをやるサークルの立ち上げを支援できたらと考えています。
		中5	・いきいき百歳体操や湧遊クラブ(男の体操)、通所B等、住民主体のサロン立ち上げによる健康づくりの推進。 ・短期予防サービスの推進や地域サロンへのお誘い等積極的に推進。 ・15分続けて歩こうプロジェクトの推進。	全30町内のサロンの推進。
		中6	お互いさまのまちづくり研修会を活用しながら、多様な場づくりを長年推進してきた。町内単位の集いの場は増加し、またさらに小さな単位で集いの場が増加している。帯山西校区では町内や校区を跨いで参加できる集いの場として発展した。	地域の方々を相談しながら、また、医療、介護専門職、保健こども課等とも連携を図り継続的に取り組んでいく。
	まちづくりセンター	各校区においてコミセン等を活用した通いの場開催に向けたサポートを実施している。その他、包括連携協定企業等と連携した講座などを開催している。	活動拠点となる場所の確保。	
福祉課	・くもと元氣くらぶ(R2年度～地域支え合い型通所サービス含む)の立ち上げ支援や活動支援を行っている。 ・地域に Outreach、地域住民へ介護予防に関する啓発や技術支援(運動機能評価の協力、感染防止対策の状況確認、感染防止に向けた情報提供・助言等)を行う等、ささやりあとの連携による住民主体の介護予防活動の立ち上げや活動支援を行っている。	同左		
②医療・介護専門職と連携した住民主体の介護予防活動の維持継続	校区自治協議会代表	託麻原校区 自治協や老人会の集まりの時に、なるべく身近な人数で予防活動、住民同士が顔のみえるように相互の理解や声かけをするように知らせる。	同左	
	熊本市食生活改善推進員協議会		食事・運動・口腔ケアを一体化した介護予防プログラムの実施。	
	熊本市8020健康づくりの会		関係専門職や関係組織と連携した活動に協力できればと思う。	
	熊本市歯科医師会	各地区での地域ケア会議での情報発信・共有。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	地域包括支援センターより情報提供いただいた介護予防活動への参加を行い、活動の維持継続に向けた支援をおこなう。※当事業所では実績はなし。	事業所ごと、ケアマネジャーごとの取り組みになるが、介護予防活動への活動については、意識を持って取り組んでいきたい。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	通いの場で、サービス事業所へ依頼し専門職種による健康体操の実施を行い、地域住民と事業所の関係づくりを行った。地域住民と事業所が顔の見える関係を作ることで、地域の中でも声のかけやすい、相談しやすい関係づくりを行えた。	まだ地域活動への協力をお願いできていない事業所や専門職種にも相談しながら、様々な視点からの介護予防や健康教育への啓発活動を拡大していきたい。
		中2	メディアメッセ桜十字会場、向山つくし庵会場、のぞみ会場には毎回事業所のスタッフが参加し、体操指導や運営をサポート。他会場も含め希望の会場ではリハ職の協力を得て体力測定を実施。	同左
		中3	近隣の医療・介護専門職の皆さんにお声かけして、住民主体の通いの場における講話やイベントでブースを設置してもらいました。広域リハ、地域密着型リハの専門職の皆さんと通いの場で体力測定を実施し、通いの場の継続を支援してもらいました。	通いの場における専門職の講話や体力測定は継続的に実施していけたらと考えています。
		中5	居宅・包括連絡会での地域サロンの紹介から、実効性のある介護予防のプランニングへ。	コロナ禍で衰退した、医療との関係構築。
		中6	集い場において、リハ職派遣を活用したり、地域にある医療・介護専門職が参加してフレイル予防について維持継続に取り組んでいる。また、体力測定を実施する際には包括や医療機関のみでなく、薬局や保健こども課、参加者、地域にいる看護師なども協力をして行っている。	地域の方々を相談しながら、また、医療、介護専門職、保健こども課等とも連携を図り継続的に取り組んでいく。
福祉課	・くもと元氣くらぶ(R2年度～地域支え合い型通所サービス含む)の地域リハビリテーション活動支援(リハビリテーション専門職の派遣)を行っている。R5年度より地域支え合い型サービス、高齢者サロン等にも派遣。 ・地域リハビリテーション広域支援センターと連携を図りながら、技術支援を行う地域密着リハビリテーションセンターが地域で円滑に活動できるための地域との関係づくりを支援している。	くもと元氣くらぶ、地域支え合い型サービス通所B、高齢者サロン等へ体力測定、運動指導の派遣希望が増えているが、地域密着リハビリテーション病院が少なく、対応できるリハ職に限られている。		
保健こども課	高齢者サロン等で他機関の専門職と連携し、住民主体の介護予防活動の維持継続ができるように支援を行った。			

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
③全世代で集える場の充実	校区自治協議会代表	託麻原校区 地域住人を一緒に集めての活動が時間や広い場所の確保がなく、集いは町内ごとに参加者ができるようにする。	集える場がなく、場所を選ぶことが難しい。一同に会する場所を探したい。	
	熊本市民生委員児童委員協議会	ふれあいいきいきサロンでの幼稚園児と高齢者とのふれあいを実施。		
	熊本市食生活改善推進員協議会		食をきっかけに他の健康づくり活動(体操・見守り等)の参加の輪を拡大。	
	熊本市8020健康づくりの会	校区イベント等全世代が集う場にて啓発を実施した。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会		協会として取り組めるか検討していきたい。	
	熊本市障がい者相談支援センター	地域活動支援センターの中で実施されているレクリエーションスポーツへの参加や来所して利用者等との交流(サロン活動)への参加を通じて地域の中で障がいを通じた多世代の方が集える機会や場の提供を実施している。	地域の民生委員児童委員協議会や自治協議会の場や当センターで実施している障がい者サポーター研修の場、年に数回発行しているセンターの広報紙などでセンターに関しての啓発活動を行い、その中で地域活動支援センターの中で実施しているレクリエーションスポーツへの参加や来所して利用者等との交流(サロン活動)への参加についてアピールできればと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	壺川公民館での小学生見守り活動や一新校区や壺川校区での地域食堂も活動されているが、介護予防についての啓発活動が行えておらず、活動内容の詳細についても把握ができていない。	把握できていない地域食堂や公民館での活動の把握を行い、ニーズの抽出やマッチング、啓発活動を行っていきたい。
		中2	向山校区では、協議体を活用し高齢者だけでなく子どもでも参加できるたあ〜だ集まる会を開催。また、メディメッセ桜十字会場での百歳体操は、サンリブくまなんで開催されており、買い物ついでに参加できる会場となっている。	同左
		中3	碩台地域コミュニティセンターでは、碩台青少協の主催で放課後の児童の居場所づくりを実施されており、高齢者がボランティアで継続的に参加されました。	ポッチャ、eスポーツ、スカウトボール、健康マージャンなど、障がい者も含めた、多世代、全世代で実施できるような取り組みを推進しながら、場の充実が図れたらと考えています。
		中5	医療・保健や介護・福祉の連携会にてACP研修会の開催、終活から今からできる事を考える。	同左
中6		全世代で集える場づくりを常に意識して、地域で研修会を組み立てている。校区や町内単位で、集いの場への子どもの参加や保育園との連携などを意識して推進されている為、そこへ参加協力している。	意識して取り組んでいく事が大切である。取り組みの中でも多世代交流の視点をもって、多様な場づくりに取り組んでいきたい。	
保健こども課	直接的な支援は行っていないが、子育てサークルでの世代間交流や、地域イベントを地域主体で実施されており、その後方支援を行った。	同左		

<基本目標2. これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけて外へ出よう！>

取り組み方針(1)シニア世代一人ひとりが地域の支え手として活躍できる機会を拡げる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①ボランティア活動の情報提供と参加促進のための支援(マッチング等)	校区自治協議会代表	託麻原校区	校区自治会の情報は町内会で連携し、ネットワークを通じて生活習慣、健康予防や取組を実施し周知を行っている。	校区でも地域差があり、合同にまとめることが難しい。
		城東校区		くまもとアプリを活用していきたい。
	熊本市食生活改善推進員協議会		地域で行われている健康づくり・福祉・食支援等のボランティア活動を調査し紹介。	
	熊本市8020健康づくりの会	イベントやパネル展示を通して活動紹介を行った。	継続して取り組む。	
	熊本県介護支援専門員協会	ケアマネジメント上で自立支援に伴う活動等への情報提供をおこなっている。	実際に地域活動へつながるケースは少ないと思いますが、継続して取り組んでいきたい。	
	熊本市障がい者相談支援センター	圏域内の各地域の自治協議会や民生委員児童委員協議会等への参加させて頂く際や地域の学校や団体等に向けて障がい者サポーター研修等のイベントを実施する際にセンターの啓発活動と同時にボランティア活動の呼びかけを実施し、情報提供を行っている。近隣に小中学校や大学などの教育機関が多く点在しているため、そのような機関からのボランティアの受け入れ等も実施している。	今後もこれまでと同様に圏域内の各地域の自治協議会や民生委員児童委員協議会等への参加させて頂く際や地域の学校や団体等に向けて障がい者サポーター研修等のイベントを実施する際にセンターの啓発活動と同時にボランティア活動の呼びかけを実施し、情報提供を行っていただくと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	一新、城東、五福校区での通所Bの活動の中で、出張講座の依頼をマッチング事業を活用し、情報提供を行っている。内容についても毎年活用されている内容もみられており、地域活動の中での活用も定着してきている。	ボランティアやささあい型サービスを利用した移送支援の実現を目指したい。
		中2	介護予防サポーターや地域活動の担い手を募集している等の情報を地域の通いの場、民協などの会議周知している。また、介護予防サポーターを活動につないだり、通いの場を立ち上げる際運営者、協力者の育成・募集を行う等活動の場の紹介、情報提供を行っている。	同左
		中3	住民主体の通いの場の活動や黒髪校区で実施されている地域お助け隊の活動、校区の行事や実行委員会有志によるイベントのお世話役など、ボランティアを募集する場とボランティアをしたい方を数名、つないでいます。	広い範囲でのボランティアはできなくても、自治会など本当にご近所どうしのボランティアはできる方もいるはずなので、自治会長や民生委員さんと連携し、組織づくりにつなげていけたらと考えています。
		中5	介護サポーターの意義や養成講座の案内。介護サポーターマッチング事業の活用と周知。	同左
		中6	ニーズがある方に対して、地域の集いの場や施設等さまざまなボランティア参加への提案及びマッチングを行っている。	ニーズがある方に対して、地域の集いの場や施設等さまざまなボランティア参加への提案及びマッチングを行っている。
	福祉課		・高齢者に関する地域でのボランティア活動の場を求める個別相談を受けた場合にはささえりと協力していない。 ・介護予防サポーターと活動の場とのマッチングによる地域との関係づくりを支援している。 ・R5年度より介護予防サポーターの活動の場を増やすため、地域の通いの場や生活支援ニーズとのマッチングを行った。	生活支援(買い物同行、庭木の剪定など)のニーズはあるが、対応可能なサポーターが少ないことや希望日での対応について確実性がないため利用しにくい。マッチングシステム導入以前に養成されたサポーターへシステムの周知ができていない。
	まちづくりセンター		課題を抱えた地域団体と地域貢献に関心のある企業や学校等をマッチングして、連携事業を創出することで、多様化する地域課題の解決や地域活性化を図る。	・地域団体の課題の掘り起こし。 ・事業の広報周知。
②高齢者の知識や経験を生かした活動の場づくり	校区自治協議会代表	託麻原校区	サロン開催時または老人会で高齢者の人たちが事例や経験を聞き、地域の福祉のあり方や町内全体の情報を知ること努める。	年代を越えた人たちを集め、意見交換をしたい。
	熊本市食生活改善推進員協議会		中学校の郷土料理づくりに生徒に作り方を教える先生として参加を依頼。「とても楽しかった」「次回も参加したい」等の声が多数あり経験豊富な世代の知恵が若い世代にも伝わり、世代間交流が活発化した。	食生活改善推進員が講師となり、地域住民と一緒に調理・交流する活動を実施。
	熊本県介護支援専門員協会		ケアマネ業務にも地域資源の創出の考えはあり研修会等で学びますが、実際に創出できている話は聞きません。	地域の活動の場づくりなどへの意識を持ちつつ、既存の活動の場の活用など継続していきたいと思います。
	熊本市障がい者相談支援センター		コロナ禍になる前までは、センターの近隣にお住いの高齢の方が1名、月に一度、ボランティア講師として来所して頂き、絵手紙教室のプログラムを実施していたが、現在は実施出来ない。	圏域内の各地域の自治協議会や民生委員児童委員協議会等への参加させて頂く際や地域の学校や団体等に向けて障がい者サポーター研修等のイベントを実施する際にセンターの啓発活動と同時にボランティア活動の呼びかけを実施し情報提供を行って行く中で対象の方がいらっしゃればボランティアとして受け入れを行い、活躍の場が提供出来ればと考えている。
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	壺川公民館では、小学生の見守り活動、五福お元気クラブでは、雑巾作りを行い小学校に提供したり、地蔵の前掛けを作ったりと地域に貢献できるやりがい作りを行っている。現在はこの2か所のみとなっている。小学生の相手となると体力的に自信がないなどの声もきかれています。	同左
		中2	介護予防サポーターや地域活動の担い手を募集している等の情報を地域の通いの場、民協などの会議周知している。	同左
		中3	男性の高齢者が活躍できるようなボランティア人材を育成していくため、木のおもちゃづくりを子どもに教える「木育」のボランティアを熊本大学教育学部との先生と一緒に育成しています。	地域の子どものためにボランティアしたい高齢者は多くおられ、高齢者の介護予防にもつながるため、今度、多世代で活動する場を増やせたらと考えています。
		中5	サロンや通所Bでの高齢者の趣味活動の披露の場や展示の場の提供。サロン参加者の増加。各サロンや老人クラブでの役割の継続支援。	同左
		中6	地域の中で、これまでの知識や経験がある方、もしくは得意な分野(運動、手芸、工作等)がある方、集いの場でその能力を発揮されている。	ニーズがある方に対して、地域の集いの場や施設等さまざまなボランティア参加への提案及びマッチングを行っている。
	保健こども課		・校区子育て支援ネットワークの活動の中で、高齢者と園児の交流、校区高齢者支援ネットワークの活動の中で、高齢者と大学生の交流の場づくりの後方支援を行った。 ・直接的な支援は行っていないが、通学路の見守りや伝承体験等、地域が主体となり実施されている。	同左
	まちづくりセンター		地域デビュー講演会の開催により、地域活動に対する理解を深めるとともに、楽しみながら地域で活動するライフスタイルを推奨。実際に活動者の知識や体験談を通して幅広い世代に地域活動の楽しさや意義を伝え、身近に感じてもらう取り組み。その後、実際に地域活動への参加を通じて交流をはかる。	・住民にとどまらず企業への働きかけを行う。 ・若年層も含めた幅広い世代への周知。

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
③学びの場づくり	校区自治協議会代表	託麻原校区	ネットワーク会議やサロン活動時に情報発信・提供している。	会合する場所が少なく難しい。
		城東校区	毎週1回体操を1時間、その後1時間出前講座等で健康や福祉等の話を聞く。	同左
	熊本市食生活改善推進員協議会		「減塩・たんぱく質・フレイル予防」等テーマを設けたミニ講座の実施。	
	熊本市8020健康づくりの会	高齢者サロンや元気づらぶ等の集いの場を活用して、あいうべ体操や唾液腺マッサージを実施。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	介護情報などの学習の場で、講習などを行っているような話は聞きますが、当事業所としての取り組みはなし。	協会としてどのような取り組みができるのか検討していく。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	通所Bでは、まちセンやマッチング事業を活用したスマホ教室を行った。1度ではなかなか覚えられないという声もあり、数回にわたってスマホ教室を行っているところもある。現在は通所Bのみでの開催となっている。	高齢者のスマホ教室の拡充を図りつつ、高校生や大学生など若い世代に協力を得て、世代間交流を含めた活動にいき、高齢者と若い世代がお互いに学びの場となる活動にしていきたい。
		中2	本人が得意とすることや無理なくできることを活かせる場があることを知ってもらい、または介護予防サポーターや認知症サポーター養成講座等を紹介し、講座を通じ知識を広げてもらい活動のきっかけとなるよう働きかけている。	同左
		中5	サロンや通所Bでの高齢者の趣味活動の披露の場や展示の場の提供とインスタグラムやリーダーグループLINEでの周知。研修会の開催と参加案内。	同左
		中6	介護保険や介護予防、認知症、成年後見制度、消費者被害等集いの場において、啓発しGW等話し合う機会をつくる場づくりを行っている。年に1回3校区合同の研修会を行ったり校区単位で研修会を行っている時には、参加や参画を行っている。	地域の実情や課題を整理しながら、各校区、医療や介護職とも連携を図り継続的にやっていく。
	福祉課	ささえりあとの連携による地域での各種会議や関係機関との会議等において地域の実情共有や研修会を開催している。	同左	
保健こども課	地域での会議や高齢者サロン、個別支援にて、情報提供を行った。	同左		
④老人クラブ等既存活動の活性化	校区自治協議会代表	託麻原校区	老人クラブ自体が人数が少なく、事業も大変な中、グランドゴルフ大会等の参加の呼びかけやイベントの参加を行う。居場所づくりで助け合う。	会員の減少を防ぐための努力。
		熊本市食生活改善推進員協議会		季節に合わせた栄養講話の実施。
	熊本市8020健康づくりの会	老人クラブで、あいうべ体操や唾液腺マッサージを実施。	継続して取り組む。	
	熊本県介護支援専門員協会	直接的なかかわりはありません。	協会としてどのような取り組みができるのか検討していく。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	五福校区の老人クラブは、自主的に活発に活動されている状況。一新校区については1町内のみ残っている状況だが、他町内からも参加されており、こちらも日帰り旅行や花見、敬老会など自主的に活動されている状況。	同左
		中2	老人会クラブなどの活動がマンネリ化しないよう、医療・介護専門職等の協力を得て健康講話やレクリエーションなど活動内容の充実に向けサポートしている。	同左
		中3	昭和や平成から続いてきた住民主体の既存の活動について、お世話役が不足し、休止や解散されることも増えてきましたが、会がなくなってもやりたいことだけは継続したい場合もあり、新たな趣味サークルの立ち上げに向けて助言するなどをしました。もともと月1回の例会の開催だった会が、サークルになって月2回開催される場もあります。	やりたいこと、楽しいこと、効果のあることなどを、やりたい人がやりたい方法で無理なくできるように、社会資源のつなぎ、手法や工夫の助言など、支援していけたらと考えています。
		中5	リハ職派遣事業の活用によるエビデンスを実感し継続に繋げる。老人クラブへ講話等の協力にて集いの場の大切さの周知。	定期的に開催している老人クラブを通所Bへの移行にて、運営の充実を図る。
	中6	各種団体の活動の状況を把握し、必要に応じて参加、参画している。その際に活動の課題等を抽出している。	種団体の活動の状況を把握し、必要に応じて参加、参画している。その際に活動の課題等を抽出し、地域課題として検討していく場につなげていく。	
	保健こども課	老人クラブ主催の高齢者サロンにおいて、講話等を実施し、後方支援を行った。	同左	
福祉課	ささえりあとの連携による地域での各種会議や関係機関との会議等において地域の実情共有や研修会を開催している。	同左		

取り組み方針(2)介護が必要になっても自分らしい生き方が継続できる地域をつくる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①自分らしい生き方に気づけるための意識づくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 サロンや近所の人と一緒に地域の健康づくりのために情報共有や生活習慣を話し合い、町内ごとの小さなサロンの充実や助け合いがどれだけでもか町内会で話し合った。	自分にできるボランティア等町内の話し合いの時間づくりをしたい。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		食事を囲むことで、参加者同士が語り合い、「自分らしさ」について自然に話し合える場づくり。	
	熊本市8020健康づくりの会	8020中央支部総会で「人生会議セミナー」を企画実施(講師:にしくまもと病院 林先生)。	8020健康づくりの会が実施する研修会や校区リーダー会を通して全会員に周知し啓発する。	
	熊本県介護支援専門員協会	アセスメントの充実にて、生活歴、仕事歴、趣味、交友関係などを把握に加え、どのような生活を送りたいかの確認をおこない、支援ができるように取り組んでいます。	アセスメントに「適切なケアマネジメント手法」の導入が進んでいますので、活用できるように取り組んでいきたいと思っています。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	通所Bやサロンでの終活講座を提案し、4か所で行っている。反響も大きく、毎年行うことで、意識付けを図っている。	終活講座については住民のニーズもあり、他の通いの場への拡充や掘り下げた内容への取り組みを行っていきたく考えている。
		中3	医療・介護サービスに強く依存するなど、偏った社会資源にだけ依存するのではなく、地域の多様な社会資源にうまく頼りながら、自分らしい生活ができるように相談支援させてもらっています。	不足する社会資源があれば、多業種の多職種の皆さんと、地域の多様な社会資源を開発できたらと考えています。
		中5	お互い様まちづくり研修会にて、個々の役割の発見や継続支援。早期から友人・知人をつくり交流によるうつ症状の解消や認知症予防につながり生活の活性化を推進する。地域共生社会の理解と周知。	地域向けの研修会の開催。
		中6	町内単位で体力測定を実施し、フィードバックを行ったり、検診の必要性等を啓発している。また、区福祉課の介護予防担当者や校区保健師とも連携を図りながら意識づけを行っている。	集いの場を活用して、各校区、校区保健師、薬局、リハビリ専門職の方、区福祉課介護予防担当者と連携を図り、継続して実施していく。また、フレイル状態のある方には、短期集中のなどを提案していく。
	保護課	家庭訪問等で生活状況等を確認。介護等にかかる必要な助言を行っている。	同左	
	福祉課	くまもと元気くらぶ等の地域の介護予防活動や窓口での個別相談、個別ケース訪問等において啓発を行っている。	同左	
②自分らしい生き方が継続できるための地域・福祉・介護・医療との関係づくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 ささえりあや自治協等と共に会合にて健康のまちづくりを地域住民と共に研修し、ボランティア育成が増員と、ずっと住んでいたい街づくりの話し合い。	年齢を問わないサロン作りと参加の呼びかけをしたい。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		民生委員・老人クラブ等と連携し、参加しやすい「通いの場」づくりに協力。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会	福祉・介護・医療関係者とは、研修会などを通して連携強化に向けて関係づくりをおこなっています。	業界団体との連携に向けた取り組みは行いやすいですが、「地域」は、個人から団体まで幅が広く、個性が高いものと思われまますので、関係づくりも統一性が図れるか悩みます。	
	熊本市障がい者相談支援センター	圏域内のささえりあと連携し、協同で8050や9060世帯の支援にあたることや定期的な勉強会の開催を共同で行い、実施している。	今後も引き続き、圏域内のささえりあと連携し、協同で8050や9060世帯の支援にあたることや定期的な勉強会の開催を共同で行い、実施していきたいと考えている。また、その中で高齢と障がい相互の福祉サービスの理解を深めていくことやお互いの支援の状況等について共有したり、意見交換等を行っていかねばと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	小学校での認知症キッズサポーター養成講座での活動の際、事業所や民生委員、認知症コールセンター、まちづくりセンターへ協力を要請している。地域住民と事業所の顔の見える関係作りを行い、事業所にも地域との関わりを持ってもらう機会を作っている。小学校の認知症キッズサポーター養成講座が5校区のうち2か所しか開催できていない。	認知症キッズサポーター養成講座が開催できていない校区もあるため、今後は開催できていない小学校への提案や親世代の参加、障がい支援センターへの協力も検討していく。
		中3	人生の最終段階における医療や介護の選択について、講話や研修会を開催し、自分の想いを他者への委任・代行に適切につなげて、周りが困らないようにするための取り組みを推進しています。	黒髪校区・碩台校区の住民の皆さんが実施している救急情報カード(命のバトン)に本人の想いもつなげるように、推進していけたらと考えています。
		中5	医療・保健や介護・福祉の連携会にてACP研修会の開催、終活から今からできる事を考える。	同左
		中6	「自分らしい生き方」を意識して地域サロンに各種専門職、校区保健師、包括等が参加、参画している。お互いさまのまちづくり研修会においても「自分事」として考える場づくりを行っているが、その継続性と過程が「自分らしさ」に繋がっている。この研修会には、医療、介護、地域、行政等様々な方が参加される。	できる限り継続して実施していきたい。また、可能であれば、町内単位での実施を目指したい。
	保護課	介護等が必要な被保護者について、ささえりあ等への連絡や同行訪問を実施している。	同左	
保健こども課	個別ケース検討を通して、ささえりあや民生委員、医療機関等と連携を図っている。	同左		
福祉課	ささえりあによる自立支援型地域ケア会議の開催支援を行い、保険者として出席し助言している。個別課題から抽出した地域課題を共有し、対応の検討と施策化への支援を行っている。ささえりあによる課題解決型地域ケア会議に対して開催支援と対応の検討を行っている。	同左		

<基本目標3. 当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう！>

取り組み方針(1)当事者(要介護者・家族)の日々の暮らしに寄り添える医療・介護サービスを行う

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①身近な先進事例や当事者の経験を活かせる人材の育成	校区自治協議会代表	託麻原校区 町内ごとに自治会にて見守り活動について身近な経験者や識者の話を聞き、次世代につなぐようにと話し合った。	年齢を問わない参加者を求め、多くの人に呼びかける。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		介護や生活支援の現場で成功している学び、地域の実情に合わせて取り入れる研修や勉強会を実施。	
	熊本県介護支援専門員協会	法定研修及び法定研修外研修の開催と参加にて、自立支援に向けたケアマネジメントができる様に研鑽しております。	ケアマネジャーの受験者数の減少に伴い、ケアマネ不足への対応を図りつつ、人材育成を継続する。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	居宅やサービス事業所向けに意思決定支援や認知症当事者の思いを知る研修会などを実施。ケアマネジャーやサービス事業所の人材育成を図っている。意思決定支援については、居宅や事業所からも気づきや今後の支援に活用していきたいとの声がかかれた。	司法書士や多職種を巻き込んだ意思決定支援の研修を今後行いたいと考えている。
		中3	ご相談を受けた際は丁寧なアセスメントを実施し、生活歴や生活背景から、ご本人の生活意欲を引き出しながら、必要な支援につないでいます。	同左
		中5	重層化する課題に対し、障がいがかかえる高齢者への支援力の強化のため、総合相談機能を充実させて、早期介入と解決へ向けて支援する体制と専門職種の育成。	地域役員のみならず、地域住民の理解の促進。
		中6	町内の集いの場の運営においては、地域住民が自分達で地域の中の人材を探されている。得意な事を地域サロンで発揮できる機会があることが大切だと思う。そのため、個別のケースからも本人のニーズに合わせて地域とのマッチングを行っている。ウイズ帯山39会(虐待防止ネットワーク)では、地域共生社会に向けた様々な学びを校区社協、民児協や専門職とともに取り組んでいる。	同左
	保護課	ケースワーカーが携わった先進事例等について、係会議等をおして他職員へ周知し、理解を深めている。	同左	
福祉課	ささえりあによる多職種との連携会議等の開催を支援し協議している。	同左		
②自立を促す介護サービスの提供に向けた、かかりつけ医と地域包括支援センターとの連携の機会の充実	校区自治協議会代表	託麻原校区 それぞれのかかりつけ医を知ることが世帯や人口等の関係で難しいが、ささえりあ等や医療関係の人がネットワーク会議に参加された知識や情報を知ることができた。	同左	
	熊本市食生活改善推進員協議会		定期的な情報交流会や合同研修会を通じて、医師・看護師・ケアマネジャー・栄養士・食改等が顔の見える関係を構築。	
	熊本市歯科医師会	各地域での地域ケア会議への対応。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	かかりつけ医と地域包括支援センターとの連携は、個別ケースにて行われていると思います。居宅介護支援事業者協議会にて、毎年「主治医との連携セミナー」を開催し、連携の充実に向けて取り組んでいます。	ケアマネジャーの課題として、かかりつけ医との連携があり、毎年セミナーを開催していますが、十分ではないとの評価があります。多くの課題がありますが、継続して取り組みたい。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	包括運営協議会の委員に医師がいるが、今までは地域が介入した困難事例などの情報共有を行うことはあったが、自立支援についての考え方や、医師としての意見交換の機会を持っていなかった。	包括運営協議会の中で、自立支援型地域ケア会議で出た事例の報告を行い、自立支援に向けた意見交換を行っていききたい。
		中3		中央区は長く運営されているかかりつけ医が多く、クライアントとの信頼関係が強く、身の上の相談をされる機会も多くあるため、かかりつけ医から包括を紹介してもらえるように連携していきたいと考えています。
		中5	自立支援地域ケア会議の充実。助言者とケアマネジャーと共にOJTの場としての活用。かかりつけ医との情報交換の推進。	かかりつけ医との連携のための研修会開催の検討。
		中6	総合相談の中や介護予防の中で、かかりつけ医への定期受診や特定検診等必要に応じて啓発。また、かかりつけ医がない場合等には、その必要性の啓発。また、必要がある方は都度医師と連携を図り対応している。2年に1回程度、在宅医療介護連携の研修会を開催しており、その際に案内を行い連携充実の機会を設けている。また、包括の取り組みを広報紙で周知している。	地域の実情や課題に応じて、継続して実施をしていく。
	保護課	要請に応じ地域包括のケース検討会議に参加している。	同左	
	保健こども課	随時個別ケース会議への参加、必要な情報提供を行った。	同左	
福祉課	ささえりあによる地域ケア会議(自立支援型・課題解決型)や多職種との連携会議等の後方支援を通して関係機関とのネットワークを推進している。	同左		

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
③医療・介護・福祉・地域の連携による、身近な地域での支え合いネットワークの構築	校区自治協議会代表	託麻原校区 ささえりあを中心に地域運営協議会の開催時、支え合いネットワークの運営や活動についての話し合い、意見の共有ができた。	同左	
	熊本市民生委員児童委員協議会	小学校児童に視覚障がい者及び車いすでのサポート学習。	学習の機会を増やしたい。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		食を通して人をつなぎ、医療・介護・福祉・地域の懸け橋となり、支え合いの地域づくりを目指す。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本市歯科医師会	医師会・看護協会・薬剤師会・歯科衛生士会・8020推進員での定期的な会議の開催。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	医師会、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護協会などとの連携セミナーや合同ワークショップなどを開催し、ネットワークの構築を行っています。	現在、ネットワークづくりに取り組んでいる団体との連携の充実に加えて、他団体との連携に向けた取り組みを行っていききたい。	
	熊本市障がい者相談支援センター	圏域内のささえりあと連携し、定期的な勉強会の開催を共同で実施している。その中で障がい、高齢相互にまたがる事例についての事例検討会の実施や圏域内の居宅介護支援事業所等を集めてささえりあが開催している居宅包括連絡会にも障がい福祉の立場で参加している。	今後も引き続き、圏域内のささえりあと連携し、定期的な勉強会の開催を共同で実施したり、障がい、高齢相互にまたがる事例についての事例検討会の実施や圏域内の居宅介護支援事業所等を集めてささえりあが開催している居宅包括連絡会等にも障がい福祉の立場で参加していければと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	居宅やサービス事業所を対象とした研修会や地域活動へケアマネージャーや事業所に参加してもらうことで、地域と居宅・事業所の交流の機会を設け、ネットワーク構築を図っている。	現在は、サービス事業所も包括から声かけをして地域活動に参加してもらうことが多い。サービス事業所や地域のクリニックなどが、自主的に地域と繋がりを持ち、地域での健康教育や介護予防などを行えるような支えあいのネットワークの仕組み(体制)作りを行いたい。
		中3	強い連携が必要な場面は、人生の最終段階における在宅での看取りの場面となりますが、ご本人らしく最期まで生きることをご家族やご近所の住民、多業種の多職種が支援して看取ることも増えています。	住民の皆さんが人生の最終段階において選択と心がまえが持てるように、啓発し、知ってもらう必要があると感じています。
		中5	自立支援型・個別型地域ケア会議にて、行政、ケアマネ、事業所、自治会、民生委員等の参加にて、官民一体となって支援体制の構築を行う。	同左
		中6	校区社協、民児協を中心とした地縁組織と医療、介護専門職、障がい分野等との研修の機会を年に数回設けている。例えば、直近では、ヤングケアラー問題や個別の事例検討会等。常に一緒に考えていく過程を通してネットワークの構築及び強化を図っている。	地域住民を含めた開催や専門職のみのネットワークづくりなどを継続して実施していく。
	まちづくりセンター	地域包括支援センターささえりあ主催の地域運営協議会等への参加を通じて、関係団体とのネットワークを構築し、情報収集や提供を実施している。また、校区単位での企画会議に参加し、事業実施までの協力を行っている。	・地域包括支援センターささえりあ主催の地域運営協議会 ・中央区障がい者ネットワーク会議	
	保護課	問題のあるケースについては、医療機関等と連携し対応を行っている。	同左	
保健こども課	地域包括支援センター運営協議会へ出席し、情報共有を行った。	同左		
福祉課	個別ケースの支援を通して、地域支援団体や関係機関との連携について協議している。	同左		

<基本目標4. いざという時もみんなで支え合えるよう、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう！>

取り組み方針(1) 若いも若きも、元気な人も、支援が必要な人も、共につながって支え合う地域をつくる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①身近な地域で気軽に相談できる体制づくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 地域でずっと住み続ける居場所づくりを目指して町内でいつでも遠慮なく言葉をかけあえる体制をつくりたいけど、新・旧の住民のコミュニケーションの努力が難しい。	町内でのあいさつ運動。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		健康講座や料理教室等の場で、参加者の不安・悩みを聞き取り、専門機関につなぐ初期相談のきっかけづくり。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒で積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会	当事業所として、地域密着を意識し「出水南校区ーいずなん」と事業所名を付けました。ご近所で、関わりがある方々からは近くに相談できるところがあってよかったとお声をいただいています。関わりのない地域などからの認識が得られないのが課題。	居宅介護支援事業所の特色を生かしながら、所在地域及び地域包括支援センターとの関係性を作れるよう取り組んでいきたいと思っています。	
	認知症の人と家族の会	コールセンター事業では、水曜日以外9～17時までいつでも相談を受けている。傾聴だけでなく、関係機関につなぐ等、関係機関との連携も強化している。	集いやカフェ、サロン等で出前相談ができれば参加者も増えるのではないかと考えている。	
	熊本市障がい者相談支援センター	圏域内の各校区内の民生委員児童委員協議会や自治協議会等に参加させて頂き、障がいに関する情報提供を行ったり、地域における身近に相談出来る場としての啓発活動を実施し、地域内からの相談も受け付けて対応している。	今後も引き続き、圏域内の各校区内の民生委員児童委員協議会や自治協議会等に参加させて頂き、障がいに関する情報提供を行ったり、地域における身近に相談出来る場としての啓発活動を実施し、地域内からの相談も受け付けて対応していきたいと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	おたがいさまの啓発事業で通いの場第2交流会を通し、「自助・互助」についての理解をカードゲーム等活用し意識付けを行っている。民生委員や地域活動をされている方への意識付けの効果か、地域での困っている高齢者への支援や相談も増えてきている。	民生委員や地域活動の世話人の方には意識付けができてきているが、他の地域住民への意識付けはまだできていない状況。地域全体に「自助・互助」の考えを広め、気軽に相談できる体制づくりを目指したい。
		中3	日頃からの挨拶やおすそ分け、ちょっとした助け合い、地域の行事やイベント、通いの場などに参加することで、いざという時に声をかけやすくなります。	同左
		中5	チームオレンジこすもすにて、認知症の地域の理解や共生社会の実現、運営協力。自治会、民生委員間の連携支援。	チームオレンジこすもすのメンバーに公共機関等も参加し、企業団体の理解者を増やし、より認知症の方が住みやすい環境づくり。
		中6	各種団体活動に参加して、フレイル予防等啓発する時に、集いの場等活動に参加することがどのような意味や効果をもたらすのか意識して啓発している。また、包括や専門職が参加することが身近な地域で気軽に相談できる体制づくりに繋がっている為、さまざまな相談を受けて対応している。また、地域にある「暮らしの保健室まる」とも連携を図り、必要時には協力して対応している。	地域の活動への参加、地域にある様々な居場所とも連携を図り、相談できる体制を継続する。
まちづくりセンター	地域担当職員として、各種団体長をはじめ、地域の方からの生活相談等へ幅広く対応している。また、地域活動へも積極的に参加し、日頃から相談し易い関係性づくりに努めている。	同左		
保健こども課	地域の会議に出席し関係作りをし、地域住民や地域役員からの相談時、ささえりあと連携し支援を行った。	同左		
福祉課	地域住民やささえりあからの相談対応や、相談窓口でのささえりあの周知を行っている。	同左		
②いざという時も助け合える見守りの仕組みづくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 町内ハザードマップを作り、防災等の話し合いや町内の助け合い、支え合い活動と思うが人数が限られ参加が少ない。	声かけ誘いに努力する。	
	熊本市民生委員児童委員協議会	熊本県「孤立の状況」が心配される世帯のアンケート調査を民児協で実施。	校区単位で心配される世帯の情報把握。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		一人暮らし高齢者や支援が必要な方を把握。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒で積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会	認知症ご利用者が徘徊された際、地域住民の支援にてご自宅まで送っていただいたり、ご家族へご連絡があった。	個人情報の問題が大きいたと思いますが、地域とご利用者との情報共有などができるとよいと思う。	
	熊本市障がい者相談支援センター	地域の民生委員等と協力して何か情報があればささえりあとも協力しながら適時対応している。	今後も引き続き、地域の民生委員やささえりあ等と連携していきながら、いざという時も助け合える見守りの仕組みづくりに寄与していければと考えている。またその中で地域内からの相談も受け付けて対応していきたいと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	おたがいさまの啓発事業で通いの場第2交流会を通し、「自助・互助」についての理解をカードゲーム等活用し意識付けを行っている。民生委員や地域活動をされている方への意識付けの効果か、地域での困っている高齢者への支援や相談も増えてきている。	民生委員や地域活動の世話人の方には意識付けができてきているが、他の地域住民への意識付けはまだできていない状況。地域全体に「自助・互助」の考えを広め、気軽に相談できる体制づくりを目指したい。
		中2	本荘校区では、民生委員、町内会長を中心とした見守り隊のある町内が二つある(本荘6町内、本荘11町内)	同左
		中3	スマホ教室などに日頃から参加できて、わからないことや困った事を聞けるチャラを高めておくと、いざという時も支え合う基盤ができます。	日頃から地域に助け上手、助けられ上手をつくり、いざという時に支援を受けるチャラを地域全体が高めておく必要があると考えています。
		中5	避難行動要支援者制度の周知と校区別の防災計画等の参画。地域とケアマネの顔が見える関係づくりのための研修会の開催。	出水校区防災計画の参画及び圏域の校区防災の支援。
保健こども課	中6	集いの場に参加して人と繋がる意味やその場所が生活の中でどのような影響を持つのかを様々な啓発とともに伝えている。また、校区の避難訓練などに普段から参加する事が大切な事を啓発している。	普段からの避難先の確認や防災の啓発、地域防災訓練への参加を促していく。また、それらの活動への参加をする。	
		・地域の会議に出席し関係作りをし、地域住民や地域役員からの相談時、ささえりあと連携し支援を行った。 ・直接的な支援は行っていないが、認知症高齢者への声掛け訓練を行っている校区もあり、地域での見守り体制を構築されている。	同左	
福祉課	民生委員や包括による高齢者見守り事業について後方支援を行っている。	同左		

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
③生活を支える ちょっとしたお手伝いの仕組みづくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 町内ネット枠活動を充実するために福祉推進委員の増員に努め、身の周りの支援を必要とする人たちの手助けをして民生委員、推進委員の会合をした。	同左	
	熊本市民生委員児童委員協議会	生活福祉資金借受の援助活動。赤い羽根共同募金運動の街頭募金活動。	同左	
	熊本市食生活改善推進員協議会		「助ける・助けられる」関係を自然に築けるよう、活動を楽しめる内容に工夫する。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会	熊本市の取り組みとして、「Sketter(スケッター)」という配膳、清掃、レクリエーションなどの身体介助以外のお手伝いを求める介護施設と、サポートしたい人をつなぐマッチングサービスがあります。多くの方の取り組みがあればよいと思う。	地域包括システムとして、施設ケア(特に有料老人ホーム等)も必要な社会資源と考えている。その施設運営を行うちょっとしたお手伝いの普及を期待します。	
	熊本市地域包括 支援センター連絡協議会	中1	マッチング事業を活用し、生活支援の依頼をしたが、顔の見えない関係での生活支援が難しい状況だった。地域の知り合いには頼みやすいが、初対面の人に「ちょっとしたお手伝い」を依頼することへのハードルもあるようで、マッチング事業の生活支援の活用が難しいと感じた。	ついでゴミ捨てなど家に入らず、顔見知りのコミュニティの中で「ちょっとしたお手伝い」ができる仕組み作りを作りたい。
		中2	春竹2町内では、支え合い型サービスを立ち上げ	同左
		中3	黒髪校区では自治会を主体に地域お助け隊を2箇所で開催されており、高校生ボランティアとも一緒に活動されています。	校区全体、圏域全体でも地域お助け隊の活動が広がり、高校生や大学生ボランティアも意欲的に参加できるようボランティアアプリ(くまもとアプリ)などを活用を促していきたいと考えています。
		中5	地域包括ケアシステムの互助の必要性を周知強化、自治会民生委員と共に、他役員等地域への働きかけ。	買い物支援や家事支援などの生活支援の構築(生活支援体制整備の構築)
		中6	人と人の交流が増えることで、自然発生的に助け合いが地域の中でできていると思う。しかし、仕組みづくりまではできていない。	集い場からの発展に繋がるように継続して啓発をする。
保健こども課	直接的な支援は行っていないが、買い物や移動支援などの日常生活を、地域が主体となり支援されている。また相談時、地域資源の紹介を行った。	同左		
福祉課	ささえりあによる生活支援等サービスの体制整備に向けた協議体の会議に出席し、共に検討している。ささえりあを中心とした地域支え合い型サービスの立ち上げに関する後方支援を行っている。	同左		
④各種サロン等 集いの場の拡充と 専門職との連携による 住民主体の活動支援	校区自治協議会代表	託麻原校区 各サロンが独自のやり方でサロン開催し、自治会、民生委員、老人会等と住民と一緒にサロンを開催する意義や活動を校区で共有するまちづくりを年1回発表し合う。	人数に限られるため皆に呼びかける。	
	熊本市民生委員児童委員協議会	ふれあいいきいきサロンの実施。	同左	
	熊本県介護支援専門員協会	以前は、個人的にサロンの立ち上げや運営の支援をおこなっていたこともありますが、現在は地域包括支援センターが担っていると考えています。包括センターより、専門職としての協力依頼がありますので、その都度参加させてもらっています。	継続して取り組みや協力をおこなっていきたくと思っています。	
	認知症のひとと家族の会	集い・カフェ・交流会を毎月開催。必要に応じ、立ち上げ支援も行っている。	高齢者も歩いて行ける小学校区に住民主体のカフェの立ち上げ支援。	
	熊本市障がい者相談支援センター	センターの啓発活動も兼ねて圏域内の地域で実施されているサロンに何度か参加し、サロン運営の協力を実施した。	今後も必要に応じて、圏域内の地域で実施されているサロン活動への協力等を実施していければと考えている。	
	熊本市地域包括 支援センター連絡協議会	中5	各サロンへの講話協力や企画運営等の参画。専門職とのネットワークから協力依頼。	同左
		中6	より身近な地域での集いの場を中心にとり組んできた結果ほとんどの町内で集いの場ができた。この場の中で、ニーズや必要性に応じて、専門職が参加、参画できる機会をつくり継続支援や立上げ支援を行っている。	これまで同様に各種集いの場の拡充と専門職とも連携を図り、住民主体を活動について継続支援を行っていく。
	まちづくりセンター	高齢者サロンにてeスポーツ体験会を開催。	eスポーツを活用した地域交流推進事業はR6年度末で終了。今後、地域から要望があった場合は社協へ繋ぐ。	
	保健こども課	高齢者サロン等で、当課栄養・歯科・保健師、ささえりあと連携し、住民主体の介護予防活動の維持継続ができるように支援を行った。	同左	
	福祉課	ささえりあとの連携による地域の集いの場における講話や、地域の取り組みに対する後方支援を行っている。	同左	

取り組み方針(2)認知症高齢者を正しく理解し対応できる地域をつくる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①認知症について全世代で学習する機会の充実	校区自治協議会代表	託麻原校区 認知症サポーター養成講座を校区の全世代に向けて回覧し、認知症を理解して学習することにする。認知症サポーターの育成をする。	自治会長や民生委員の多くの出席者を期待する。	
	熊本市民生委員児童委員協議会	小学校児童に認知症の理解を深めるため研修会を実施。	研修会が増えれば…	
	熊本市食生活改善推進員協議会		認知症予防につながる食生活や生活習慣を紹介する際に正しい理解と共感を深める。	
	熊本市8020健康づくりの会		継続して取り組む。 【熊本市食生活改善推進員協議会】認知症予防につながる食生活や生活習慣を紹介する際に正しい理解と共感を深める。 【認知症の人と家族の会】全世代、特に働き盛りの世代に理解してもらうため、サポーター養成講座をすすめる。	
	熊本県介護支援専門員協会	地域包括支援センターによる地域住民を対象にした講演会への参加や、徘徊模擬訓練への参加を行っています。	継続して参加協力を行っていききたいと思います。	
	認知症の人と家族の会	ささえりあ等の依頼により、小学校を含む団体のサポーター養成講座の協力、民生委員と協力し、会議時認知症についての話や資料の提供を行った。	全世代、特に働き盛りの世代に理解してもらうため、サポーター養成講座をすすめる。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	小学校での認知症キッズサポーター養成講座での活動の際、事業所や民生委員、認知症コールセンター、まちづくりセンターへ協力を要請している。地域住民と事業所の顔の見える関係作りを行い、事業所にも地域との関わりを持ってもらう機会を作っている。小学校の認知症キッズサポーター養成講座が5校区のうち2か所しか開催できていない。	認知症キッズサポーター養成講座が開催できていない校区もあるため、今後は開催できていない小学校への提案や親世代の参加、障がい支援センターへの協力も検討していく。
		中3	住民や企業、事業所に加えて、圏域内には小学校、中学校、高校、大学がそれぞれ複数あり、たくさんの児童や生徒、学生さんに認知症サポーター養成講座を開催しています。	同左
		中5	チームオレンジすすもすにて、認知症の地域の理解や共生社会の実現、運営協力。自治会、民生委員間の連携支援。	認知症サポーターの養成推進。
		中6	3校区の小学校への認知症サポーター養成講座と高齢者疑似体験の継続実施。地域や警察学校、銀行等認知症サポーター養成講座を実施している。また、帯山校区においては、認知症アクティブサポーターの登録もされた。託麻原校区では、認知症介護家族の集いを継続開催されており、その運営協力をしている。小学生は認サポと高齢者疑似体験を継続しており、体験を通して高齢者の気持ちを理解し、どのように対応できるかまで考える取り組みを継続している。	認知症についての学習の機会は地域や小学校、認知症地域支援推進委員、企業等さまざまな機関と連携を図りながら継続して実施していく。また、子ども世代の学びの場の中で、その保護者や保護者会等とも連携を図り、学ぶ機会のきっかけを作り、認サポや高齢者疑似体験が、多世代交流になるような取り組みへ発展できるように取り組んでいきたい。
福祉課	・認知症地域支援推進員による認知症サポーター養成講座の周知や開催支援を行っている。 ・企業や学校等で開催の場合は、現状や課題にあわせた内容の提供や顔の見える関係づくりができるよう支援している。 ・認知症サポーター養成講座の講師となるキャラバン・メイトの活動活性化を支援している。	同左		
②いざという時に適切に対応できる仕組みづくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 福祉の増員をはかり、町内各々の行事や活動に参加できるように呼びかけや情報の共有をできるように心がける。	参加者の増員に努力。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		「食を通じた交流」から異変に気がついたときに誰にどう連絡すればよいのかを地域で共有。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に関心ある声かけ活動を行う。	
	熊本市歯科医師会	認知症の講演会の開催(会員向け)。		
	熊本県介護支援専門員協会	上記機会の充実にて、徘徊高齢者の発見や通報の機会が増えたと感じている。	地域住民に加えて、タクシー会社、商店、金融機関などの協力も得られる関係ができればと思います。 ※発見から通報の機会が増えた半面、そのような状況で地域に住みにくくなり転居されたケースもある。	
	熊本中央警察署	認知症高齢者の所在不明事案や保護等を取り扱うことがあり、その際高齢福祉課やささえりあとの協力により、認知症高齢者の親族等に早期に連絡を取ることができた等がある。	認知症高齢者の所在不明事案や保護等の取り扱い、平日日中であれば様々な協力をしてもらえるが、土・日・祝日・夜間(深夜帯)の取り扱い時が高齢福祉課やささえりあとの連絡がつかず協力が得られないため、それぞれの緊急連絡先等がわかると警察としてはありがたい。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	企業からの認知症サポーター養成講座の依頼を受け、行っているが、講座のあとに企業から認知症疑いの方の相談が、ささえりあにくるようになった。	企業対象に認知症サポーター養成講座の啓発を行い、認知症サポーターの拡充を図る。また、チームオレンジの発足にも繋げていきたいと考えている。
		中3	認知症によるひとり歩きなどの症状がある場合、事前にサービスの契約や関係者への情報の共有を図り、行方を探す時に迅速に対応できるように相談支援しています。	同左
		中5	チームオレンジすすもすのメンバーに公共機関等も参加し、企業団体の理解者を増やし、より認知症の方が住みやすい環境づくり。	地域住民や自治会民生委員へのさらなる認知症と支援方法の理解。
		中6	認知症の啓発とともに、SOSネットワーク事業者や事前情報登録制度等の啓発を行っている。状況に応じて、隣近所や地域組織への協力依頼をしている。	認知症についての学習の機会は地域や小学校、認知症地域支援推進委員、企業等さまざまな機関と連携を図りながら継続して実施していく。また、子ども世代の学びの場の中で、その保護者や保護者会等とも連携を図り、学ぶ機会のきっかけを作り、認サポや高齢者疑似体験が、多世代交流になるような取り組みへ発展できるように取り組んでいきたい。
保健こども課	地域の会議に出席し関係作りをし、地域住民や地域役員からの相談時、ささえりあ連携し支援を行った。	同左		
福祉課	・警察署やささえりあ、その他関係機関と連携し個別相談に対応している。 ・認知症ケアパス等を活用して認知症支援について周知している。 ・地域や関係機関が実施する認知症に関する会議等へ出席し、情報提供している。 ・ささえりあや関係機関との連携による地域での認知症声かけ訓練の開催について支援している。R4年度～認知症高齢者等SOSネットワーク事業の周知を行っている。	同左		

取り組み方針(3)災害に負けない「おたがいさま」で支え合う地域をつくる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①住民一人ひとりが防災に関心を持つような取り組みの実施	校区自治協議会代表	託麻原校区 自治協主催の防災訓練に参加ができるよう回覧板や呼びかけに福祉推進員や民生委員と共に呼びかけ参加を促す。	避難訓練等の計画実行に参加することに増員を呼びかけ、対象者に訪問をお願いすること。	
	熊本市食生活改善推進員協議会	健康料理や料理教室の中で「非常時の食の備え」をテーマに講話やバッククッキング調理を実施。防災を特別なことではなく、日常の延長として考える住民が増えた。	高齢者、単世帯にもわかりやすい資料を作成・配布。	
	熊本市8020健康づくりの会		継続して取り組む。	
	熊本県介護支援専門員協会	ご利用者及びご家族へに対する避難場所の確認や防災への意識づけに関する声掛けを行っています。	ハザードマップなどを全世帯へ配布し、見える場所へ掲示するなどにて、日頃からの防災意識や避難場所への意識づけができればと思います。(ネットでは不十分と感じます)	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	今回の大雨災害で被害にあった校区もあり、城東校区では敬老会の際に、防災より水害時の避難についての話もあり、興味を持つ方も多かった。	今災害についての関心も高まっているため、防災士や消防署と協力し、災害についての講話や研修会の開催を検討していきたい。
		中3	日頃から地域住民が主催される楽しいイベントや行事などに防災の要素を取り入れてもらいながら、住民に気軽に意識を高めてもらい、参加してもらう工夫が大事だと感じています。	同左
		中5	避難行動要支援者制度の研修会の開催により制度理解から、防災計画作成の参画。	校区別防災計画の住民の理解と周知。
		中6	校区防災訓練の啓発や参加の促しを行っている。また、個別相談があればマイタイムラインや熊本市公式ラインの活用等を啓発している。広報紙などで防災訓練等の記事を用いて啓発をしている。	これまで同様継続実施。
	総務企画課	・防災出前講座 ・地域版ハザードマップ作成 ・マイタイムライン(災害時避難行動計画)作成 ・校区防災連絡会及び避難所運営委員会の設立支援 ・自主防災クラブ結成支援	・集合研修の手法 ・予算額(5区で2,500/千円:危機管理防災総室) 制作費用(5~7万円/1件) ・集合研修の手法 ・自治会役員の高齢化、後継者不足	
	まちづくりセンター	校区防災連絡会及び避難所運営委員会設立への協力、推進。校区で実施される防災訓練への参加。避難所担当職員との連携。	同左	
保健こども課	地域の会議や個別ケース(医療的ケア児等)の支援、幼児健診等において、災害への備えや心のケア等の情報提供を行った。	同左		
②なんらかの手助けが必要な人(災害時要援護者)を支援する共助の仕組みづくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 各町内ごとに町内ハザードマップを作り全世帯に配布できた。	同左	
	熊本市民生委員児童委員協議会	災害時要援護者登録名簿が令和7年度から「避難行動要支援者名簿」に一本化されることとなった。制度変更に伴い、市社協からは民生員、校区社協長への名簿配布となり、その他関係者への名簿配布については区役所対応となった。	同左	
	熊本市食生活改善推進員協議会		災害時、一人暮らしの高齢者、障がいのある方、小さな子どもをもつ家庭等への食支援・健康支援ができる体制づくり。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に関心ある声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会	特に仕組みづくりは行っていません。事業所が作成するBCPなどを活用し、災害時等は対応予定です。	事業所のご利用者への支援に加えて、熊本市個別避難計画作成業務委託事業への協力を行いたいと思います。	
	認知症のひとと家族の会	熊本地震や球磨川災害等、電話による安否確認や相談を受けてきた認知症介護指導者等と協力し、出前カフェを開催した。	災害時いち早く状況を把握し、必要な情報を伝えることができるよう、各地域の避難場所等を日頃から把握しておく。	
	熊本市障がい者相談支援センター	圏域内のいくつかの地域の防災連絡会のメンバー(アドバイザー)として障がい者支援の立場から参画し、必要に応じて障がい当事者に対しての視点を持って頂けるような意見をお伝えさせて頂いている。地域で開催される避難訓練等にも参加させて頂いている。	圏域内のいくつかの地域の防災連絡会のメンバー(アドバイザー)として障がい者支援の立場から参画し、必要に応じて障がい当事者に対しての視点を持って頂けるような意見をお伝えさせて頂いているが、管轄している全ての校区の防災連絡会等の活動に参加出来ている訳ではないため、今後、まだ関与出来ていない他の校区にもアプローチを行い、活動範囲を拡げていければと考えている。地域で開催される避難訓練等にも今後も引き続き、積極的に参加していければと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1		熊本市の災害時要援護者避難支援制度について、市や社会福祉協議会と連携し、包括の役割の確認を行っている。
		中3	災害時要援護者の避難支援計画が作成が進められています。災害時に支援が必要な方が、どういった支援が必要なのか、まわりにいる支援者や住民が日頃から知っておくことで、当事者の理解につながり、日頃からの支え合いにつながっています。	同左
		中5	避難行動要支援者制度の研修会の開催により制度理解から、防災計画作成の参画。地域とケアマネの顔が見える関係づくりのための研修会の開催。	同左
中6		災害時要援護者制度の啓発を行い、相談があれば対応をしている。状況に応じて、民生委員等への繋ぎを行っている。	同左	
総務企画課		「災害時要援護者名簿」の活用。	同左	

取り組み方針(4)声をかけ合う近所づきあいの輪を広げる

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
①全世代で集える場への積極的参加	校区自治協議会代表	託麻原校区 サロン大交流会を開催し、各町内よりそれぞれの活動を報告し合い、一つの校区で仲良くサロンを往来できるような校区に努める。	それぞれのサロンの情報交換がうまくいくように。	
	熊本市食生活改善推進員協議会	食改主催の料理教室・おやつ作り教室で親子や孫世代にも参加を呼びかけ、年齢や立場を超えて交流。	若い世代と高齢者が一緒に活動できるイベント(郷土料理・季節行事)を企画。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会		機会があれば参加していきたい。	
	熊本市障がい者相談支援センター	地域で開催されるお祭り等のイベントに毎年参加させて頂いている。地域活動支援センターの中で制作した作品や利用者個々の作品を出展し、展示させて頂くこともあり、地域とのつながりを創出出来る機会となっている。	今後も引き続き、地域とのつながりを創出出来る機会として地域で開催されるお祭り等のイベントに積極的に参加していければと考えている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中1	地域のイベントに積極的に参加し、健康相談や介護相談、啓発活動を行っている。	まちセンや小学校と連携し、全世代で集える場の把握や住民同士や事業所などが、つながる場作りをしていきたい。
		中3	黒髪校区では子どもから高齢者、多世代に加えて、外国人留学生も交えて、多文化の交流の場があります。	同左
		中2	向山校区では、協議体を活用し高齢者だけでなく子どもでも参加できるたあへだ集まる会を開催。また、メディメッセ桜十字会場での百歳体操は、サンリブくまんで開催されており、買い物ついでに参加できる会場となっている。	ショッピングモールという立地もあり多世代が集える場としてメディメッセ桜十字とコラボして新たな集いの場を立ち上げたい。
		中5	地域交流室や各校区の集い場の活用検討にて、サロン立ち上げ。夏休みを利用した、高齢者と子どもの交流の場づくり支援。	同左
		中6	集いの場や各種団体の活動等さまざま場への参加をしている。また、ニーズに応じて、地域活動等への参加の効果(フレイル予防、閉じこもり予防、有事の際の助け合い等)についても啓発をしている。	同左
まちづくりセンター	・SNSを活用した若い世代への発信。学生と連携した取り組みの推進。 ・包括協定企業と連携した事業への協力、支援。	担い手不足という課題を抱える地域に対し、いかにして若年層世代を参画させるか手法を検討。		
②戸建てでも、集合住宅でも、日頃から仲良く声をかけ合える関係づくり	校区自治協議会代表	託麻原校区 校区で大人数のサロンより町内の小さなサロンをつくり、顔のみえる、お互い仲のよい御近所になるようにサロンと福祉推進員の増員を図っている。	サロン出席参加者の増員を図る。	
	熊本市食生活改善推進員協議会		食改活動の中で、近隣の方に声をかけながら誘い合って参加できる体制をつくる。	
	熊本市8020健康づくりの会		地域住民や関係者と一緒に積極的な声かけ活動を行う。	
	熊本県介護支援専門員協会	関わりのある方との関係づくりは比較的行えていると思いますが、取り組みにあるような関係づくりはできていません。	熊本市は、高齢者の入居施設(集合住宅)が多いと感じています。最近では、高級感を醸した施設も増えており、自立された方の入所も多いと思います。その様な方々が、地域関係者と関われる関係づくりも必要になっているのではないかと感じている。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中2	身近な場所(集合住宅の集会所や憩の家、公民館などの多様な場所)に通いの場を立ち上げ、参加しやすい環境づくりを地域と一緒に行った。(通いの場への参加により顔見知りになる、互いに気かけ合える関係づくりに繋がる)	
		中5	地域交流の集い場の設定。各町内でサロンの立ち上げから、交流の場づくり。	同左
		中6	集いの場を軸として繋がりや地域活動への参加などへの促し。また、お互いさまのまちづくりの中でもマンションの問題等を念頭において企画をしている。	同左
総務企画課	自治会加入促進のためのパンフレットの作成、配布をし、広く周知を図っている。	自治会への加入、担い手不足		

その他

取り組み	実施団体・実施課	これまでの具体的な取り組み及び成果・効果があったこと	今後取り組みたいこと	
	熊本市8020健康づくりの会		8020推進員として、地域の方の歯と口腔の健康維持を目的に活動する。8020運動の普及啓発。口腔機能の維持による生活の質向上に努める。	
	熊本市地域包括支援センター連絡協議会	中5	専門職種介入により、虐待や権利擁護に対して早期対応と解決へ(ほどよう学ぼう会)。権利擁護研修会の開催。地域役員及び民生委員、住民の意識向上から、早期の介入を図る仕組みづくり。	地域福祉の推進方法として、地域を生活の舞台として、そこで暮らす住民の生活を支援し、より豊かにしていくという「暮らしを守る機能」と、生活の舞台として地域社会そのものに働きかけて、より暮らしやすい地域に変えていくという「つながりをつくる(地域をかえる)機能」の二つの機能が必要である。
		中6	お互いさまのまちづくり事業を活用して、地域課題や集いの場を焦点をあて、託麻原校区、帯山校区、帯山西校区と共に事業を実施してきた結果、集いの場が増え、帯山西校区においては、校区や町内を越えての参加を実現された。在宅医療介護連携の推進においては、終末期や地域を含む在宅医療介護連携を定期的に実施。その結果、帯山西校区においては、校区サロンのなかで、継続的にその機会を持たれている。	3校区合同の取り組みの継続をしつつ、校区や町内単位で地域課題について考える機会を各校区の実情に応じて、地縁組織や医療、福祉専門職、行政とも協力して構築していきたい。在宅医療介護連携では、地域や医療機関、福祉系事業所など他機関も含めて研修会の機会を継続して実施していく。また、できるだけ校区や町内単位でも継続して考える機会をつくってきたい。